

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(新型コロナ対策、ファンケルグループ助成)
- ・スタッフ雑感
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

190号/2020

Since 1984

『『そっちやない こっちや』上映会』

杉浦 良

2020年8月30日(日)藍住町総合文化ホール(徳島県)にて、柳澤壽男(やなぎさわひさお)福祉ドキュメンタリー映画祭が開催されました。午前午後の2回、「そっちやない こっちや コミュニティケアへの道」1982年113分作品の上映です。

2018年3月末、小西昌幸さん(元北島町創生ホール館長)に柳澤監督作品の上映会開催についての可能性とアドバイスを求めました。映画好きでも、映画に詳しいわけでもない私にとって、映画会開催は遥かに高きハードルでした。ただ2018年2月3日から16日まで、東京シネマヴェーラ渋谷にて「戦後映画史を生きる 柳澤壽男監督特集」(劇映画から記録映画、PR映画から社会福祉映画へ、そして・・・)と銘打って開催された映画祭は、

大きなインパクトでした。書籍「そっちやない こっちや 映画監督・柳澤壽男の世界」(新宿書房)416頁が出版されたのも同年2月10日。1999年6月16日83歳でこの世を去った柳澤監督が、死後20年を経て再評価される機運が生まれました。

「・・・小川伸介、土本典昭と並ぶドキュメンタリーの巨匠として知る人ぞ知る柳澤だが、その業績は正に評価されてこ



市民の皆様から頂いた紙袋
無料のレジ袋としてリユース

なかった。松竹の監督として出発した柳澤は・・・フィクションだけでなく、記録映画やPR映画、自主制作福祉映画でもスタジオで培った演出技法を手放すことはなかった。それらの作品群には日本映画の戦後史がそのまま詰まっているのであり、その意味でも柳澤を単なる企業PR映画の監督あるいはドキュメンタリーの監督と定義することはできない
・・・あらゆる手法やスタイルが同居する重層的な映画作家・柳澤壽男の全貌に迫る・・・」
とシネマヴェーラ渋谷通信に書かれていました。

実は「そっちやない こっちや」に若き私自身が映されています。当時 20 代後半の映像は、若き日の過ちを振り返るような、気恥ずかしさと照れ臭さが混同するダークサイトでした。なるべくなら白日にさらしたくはない気持ちがあったのでしょうか、自分の映像が出てくると、ふと目をそらす私があります。

しかし、柳澤監督へのこの文章を読んでいると、もうそんなことを感じたり言っている場合ではない、エイヤ！と清水の舞台から飛び降りる覚悟で、福祉ドキュメンタリー映画上映会開催を計画しなければ、と思うようになりました。そんな経緯が小西さんへの手紙となり、一方的な想いを形にして下さったのが、今回の映画会でした。

「本を読んで、柳澤監督は業績や才能に恵まれたにも関わらず、後半のドキュメンタリー作品時代は本当に苦労されたようですね」と小西さん。それに対し、私なりに答えているうちに、どこからか柳澤監督の言葉が蘇ってきました。

「・・・ある会社のコマーシャルフィルムを作った後に公害問題が発生し・・・知らなかったとはいえ・・・加担したのではと苦しんだ・・・ブラブラしてたら福祉映画の誘いがあって・・・気乗りはしなかったが・・・福祉ならそんなことはないだろうと思って引き受けたが・・・大変な世界に入り込んだと思った・・・」

それから 20 数年かけて 5 本の福祉ドキュメンタリー作品を作りました。

「夜明け前の子どもたち」1968 年

「ぼくのなかの夜と朝」1971 年

「甘えることは許されない」1975 年

「そっちやない こっちや」1982 年

「風とゆききし」1989 年

6 本目の「ナースキャップ（仮題）」制作中に帰らぬ人となりました。「ぼくのなかの夜と朝」は元国立西多賀病院院長近藤文雄が、郷里徳島に戻り太陽と緑の会を設立することとなった映画です。そんな 5 本を 5 年にわたって藍住町総合文化ホールにて上映できる機会を頂いたことは、私にとっても近藤文雄にとっても、そして太陽と緑の会や徳島にとっても、大きな意味を持つのではと思います。

わざわざ新型コロナ対策中に足を運んでくださった皆さん、文化ホールの館長さんはじめ関係者の皆さん、広報宣伝に協力して下さった皆さん、そして小西さんに感謝です。

お知らせ

レジ袋のリユース 力を入れています

レジ袋の有料義務化から4か月。当会では、リユース品の紙袋・ゴミ袋、持ち手のないリユースのビニール袋、シミ汚れなどリユース品として販売につながりにくいエコバッグなどを、無料のレジ袋として活用させて頂いております。

どこのお店に行っても有料化が当たり前になったこともあってか、「無料でくれるの？ うれしい」と喜んで下さる方も少なくありません。

新品のレジ袋(ポリ袋)・ゴミ袋は1枚5円とさせて頂いておりますが、当会では利用される方は少ないです。

リユースの紙袋を「よかったら(レジ袋として)使ってください」と持って来て下さる方がおられ、大変助かっております。

無料のレジ袋として 活用できるもの

- ①紙袋
- ②ゴミ袋
(透明・半透明・白・青・黒)
- ③エコバッグ

新品でなくても大丈夫です。

新型コロナウイルス対策

気温が下がってきたため、玄関のドアを常時開放から自動開閉に切り替えました。それに伴い、飛沫感染予防対策として、レジカウンターに防災透明間仕切カーテンを設置しました。取り付けは代表の杉浦がDo It Yourselfの精神で行いました。

窓も常時開放では寒くなってきたため、換気扇による換気も行っています。当会の建物は天井が高く、特に2階は天井がない吹き抜けの構造になっているため、通常の建物に比べ、室内に空気がこもりにくい構造になっていますが、室内用除菌消臭剤も散布しています。

お客様用の消毒用ハンドアルコールの設置、手すりなどの定期的なアルコール消毒は従来通り行っています。

第3波が懸念される昨今ではございますが、市民の皆様に安心してご利用頂けるよう努めていきたいと思っております。

第10回県職員NPO研修

10月5日、6日の2日間に渡り、5名の徳島県職員の皆様が「NPO法人短期体験研修」に参加して下さいました。

障害者相談支援センター、東部保健福祉局、水産振興課、病院局総務課、教育委員会事務局と、所属も様々です。

様々なハンディを持ったメンバーさんとの共同作業も体験して頂きました。

NPOの現場を肌で感じて頂くこの取り組みも10回目を迎えました。毎年貴重な機会を頂き、有難いことと思っております。

ファンケルグループ助成

ファンケルグループ「もっと何かできるはず基金」及びマッチングギフトによるご寄付により、リユース品陳列用ショーケースを3台購入させて頂きました。

「もっと何かできるはず基金」はファンケルグループの従業員の皆様によるご寄付であり、マッチングギフトとはそれと同額をファンケルグループ様からも寄付をして下さる、というものです。

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の一環として、市民の皆様が安心して買い物ができるよう、リユース品の売場・ディスプレイの見直しを行っています。

当会は公的資金が全運営費の19%で、運営費の8割弱はリユース品の販売収入で捻出する必要があります。今年度は新型

コロナウィルスに伴う外出自粛の影響で販売収入が多い時で前年度比4割落ち込み、運営的に厳しい状態が続いており、今回の助成は本当に助かりました。

ファンケルグループの皆様、本当に有難うございました。

差し入れ頂きました

浄土真宗のお寺（尊光寺等）の皆さんから「フードロスをなくすために、まだ食べられる不要な食材を集めてきました」と、今年3度目の食料品・お菓子・調味料などを頂きました。この前美味しい手作りお菓子を差し入れて頂いた、竹條さんが持ってきて下さいました。

メンバー達の食材やおやつとして活用させて頂きました。有難うございました。



自転車のチューブ交換

メンバーAさんの通所用自転車の後輪がパンク。自転車担当メンバーのBさんが作業として交換しました。

Cさんから立派な桃が送られてきました。Cさんは、今は解散したJYVA（日本青年奉仕協会）からの青年長期ボランティアとして参加してくれました。当会が火事に見舞われた2005年に参加し、復活大作戦と称して、その後の再建と一緒に経験してくれました。

福島に戻り2011年、東日本大震災による津波被害と福島原発事故にも身近で遭遇されました。まるで災厄を渡り歩くような人生に、その後の人生が穏やかであって欲しいと願う日々でした。

この桃が今の穏やかな日々を伝えてくれているのだろう、そう思えてなりません。

30キロの米袋がダンボール箱に入って送られて来ました。二人目の女性1年間ボランティアとして熊本から参加してくれたHさん。今年8月末には新型コロナ対策として、一斗缶入りの消毒液とお茶やお菓子をわざわざ届けに来てくれました。今度は熊本の美味しいお米の差し入れです。

本当にありがとうございました。

故柳澤壽男監督の奥様から素敵なプレゼントが届きました。舞妓さん芸妓さんの名前入り手拭で作ったというマスク。親しい友人のNさんが手作りして下さったとのこと。「一見さんお断り」の伝統を持つ京都。女性スタッフを中心にそのポテンシャルの高さとレアリティが大好評。ありがとうございました。

※誤字訂正（本誌3ページ下から7行目）
誤：水産振興課作業 正：水産振興課

柳澤監督映画上映会

8月30日、藍住町総合文化ホールにて、ドキュメンタリー映画『そっちやないこっちや〜コミュニティケアへの道〜』の上映会を行いました。

（主催：徳島で柳澤壽男監督作品をみる会

（代表：NPO法人太陽と緑の会）

共催：藍住町芸術文化鑑賞事業実行委員会）

マスク着用、検温、手指消毒、3密回避（座席の間隔をあけて、定数633席の広いホールを3分の1以下の人数に制限しての使用）、といった感染防止対策も万全に行い、午前午後の2回合計で69名の皆様に見て頂きました。

8月1日、8月29日、夜8時から放送のB-FM791「3Bの鉛筆」に、当会代表の杉浦が出演させて頂き、8月30日開催予定のドキュメンタリー映画上映会について紹介して頂きました。

朝日新聞8月28日付朝刊（徳島版）、徳島新聞8月19日付朝刊、同26日付朝刊にて上映会の紹介をして下さいました。

定休日及び冬期休業

11月23日（月・祝日）24日（火）25日（水）
12月2日（水）8日（火）9日（水）
16日（水）22日（火）23日（水）

冬期休業

12月28日（月）～1月7日（木）

新年は1月8日（金）から活動開始

※政府からの要請も踏まえ、長めのお休みとさせて頂いております。

当会をご利用下さる皆様には大変ご不便をおかけすることになるかと存じますが、よろしくお願い致します。

スタッフ雑感

増税などの影響もあり数年前からアパレル業界は苦戦を強いられておりユニクロを始めとしたファストファッション中心になってきてます。その上コロナウイルスの感染が日々拡大しておりその影響により不要不急の外出を控えることが多くなり洋服にお金をかける人も減りアパレル業界は大打撃を受けています。レナウンの破綻、米ブルックスブラザーズの破綻、ジェイクルーの破綻、イッセイミヤケの内定取り消し、ワールドの一部ブランド廃止など色々なニュースがありました。私自身洋服が好きなのでこういうニュースを見るととても悲観的になってしまいます。いつまでこの事態が続くかはわかりませんがはやく収まって需要が戻り経済が上向きになることを願っております。そのためには一人一人が意識を持って日々行動していかないといけないと思います。



値札の押印
スタンプで1枚
ずつ押します

ファストファッションが主流になってきている今、周りとの違いを求め、高品質、定価格で買えるのが古着の魅力だと思っています。ここ太陽と緑の会にも毎日色々な品物が回収、お引き取りにより入ってきます。こういった異常事態の中でも活動していけるのはこうやって当会を支援してくださる方々がいるお陰です。ここで働いていると色々な服が見れるので毎日楽しく仕事させていただいてます。自分の得意な分野からは少し外れてますが日々仕事を通して勉強させていただいております。

この活動を通して今まであまり洋服に興味がなかったようなメンバーさんが洋服に興味を持ってくれるようになったこともありとても嬉しいと思っています。至らぬ点が多々あるかと思いますが日々試行錯誤して良い団体にしていこうと思うので何卒よろしくお願い致します。(専任職員 K・S)



皆様から頂いた
お品物の仕分け

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2020 年 7 月 1 日～2020 年 10 月 31 日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

般若院募金箱、平田、増田、尾上、仁木、長谷川、天野、西谷、生田、生田、生田、匿名
(郵便振替口座) 鈴江、野田、匿名

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○三木、大和、内藤、和谷、山崎、栗飯原、日下、原、佐野、松倉、友竹、花本、迎、後藤、原、吉田、堀井、徳島県東部県土整備局、徳島大学生協同組合、西川、大寺、益田、高月、宮本、滝本、森、岸野、福山、小山、植松、アカマツ、工藤、長谷部、坂口、津田、浅田、梅田、高岡、土井、宮本、新見、近藤、古川、井内、西林、塚本、矢野、井上、福井、岩井、宇山、伊沢、鈴木、中嶋、駒形、柳、高開、杉田、大畠、中園、木村、森田、黒下、武市、高橋、谷、清水、犬伏、坂口、永栄、森本、林、芦田、手城、松島、中川、佐藤、伊丹、阿部、湊、村田、井内、佐々木、脇村、徳永、四宮、今井、丹野、山田、鈴木、秋山、中川、柊、㈱フジワーク、新居、柳生、西岡、井上、榎本、島井、武市、都築、畠中、川上、津田、湯村、吉永、谷、谷本、みま、井上、秋山、原田、中谷、三浦、芝井、手塚、大田、上田、吉村、原、阿瀬川、明石、山本、中園、岩佐、谷口、中村、丸山、仲尾、佐賀、町田、森岡、仲田、秋山、秋田、庄野、小濱、瀬戸、坂上、恒松、松谷、タンペペ、大井、才木、辺見、西、中村、ニイミ、水田、原田、谷、須見、和泉、岩本、鈴木、藤本、竹部、鎌田、小林、竹内、宮脇、中野、吉田、梶井、正木、山本、川真田、有持、牧野、鈴木、乾、南條、川上、妹尾、南、宇原、馬場、長畠、美濃、久米川、忠津、杉山、武内、加藤○鳴門市○与能本、明松、板東、フクヤマ、板東、宮井、田中、高田、岸本○吉野川市○横瀬、藤原、日野、福原、松川、鈴木、平島、片岡、戸田、寒川○美馬市○大内、大和○石井町○岩崎、児島、井内、中山、松浦、堀井、竹内、米田、河田、近藤、吉田、野田、瀬戸、笠井、ヒラタ、秋岡、児島、西岡、佐々木○阿波市○割石、谷、榎山、山本○三好市○春藤○東みよし町○タキカワ○北島町○堤、(株)フジワーク、久保、多田○松茂町○東、大西○藍住町○藤井、浅川、姫野、松本、大江、柴田、中川、大和○上板町○坂東、居内○板野町○中村、稲垣、高木、山本、沖津、武田、ゲレッジ、犬伏○阿南市○岡田、佐野、石川、原、岩倉○小松島市○多田○佐那河内村○村本、山本、NPO法人 一村○神山村○栗津、矢崎、XAVIER、中原○愛知県○松浦○福島県○小野○石川県○井上○岡山県○高橋○広島県○福澤○香川県○松村、餐場、香川県隣保館連絡協議会○奈良県○高橋、平田○埼玉県○本田○東京都○三木○愛媛県○浜田○京都府○木村、井上○大阪府○永口、吉岡、金山

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○沢田、松浦、横山、和田、香川、中西、橋本、矢部、中嶋、大槇、武田、三好、米田、貝出、阿部、岸、長浜、山本、武久、近久、内田、賀川、吉田、加地、石原、宮城、脇村、広尾、市村、藤田、新居、坂東、喜志、富永、山下、成瀬、笠原、西木、寺田、美馬、井上、久岡、窪、山崎、益田、株木、藤澤、瀧、山田、原、塩津、オシグリ、浮津、河野、久龍、立花、横山、徳島大学生協組合、山下、大原、ハートランド あっぷる、大北、長谷、原崎、片山、横田、福永、岩本、麻植、八木、前川、橋本、桜井、大下、宮越、尾崎、神田、服部、関子、里見、兼松、多田、黒田、宮崎、笠井、坂東、カンノ、美馬、富永、古田、中田金庫店、大槇内科、トリート、仲田、宮越、高井、赤石、青木、林、長谷、新見、西山、岡田、杉本、八木、渡辺、坂部、石本、四宮、濱田、七條、藤田、麦倉、尾崎、三木歯科、柴谷、渡部、新居、久次米、小島、藤永、吉田、西岡、新谷、夏木、山崎、嶋、市川、佐藤、上田、総合看護学校、宮越、土肥、大北、大木、前田、中川、林、椎野、尾上、河野、住友、川野、早瀬、坂本、石山、鈴木、佐藤、郡、武田、坂東、池田、東、四国銀行徳島西支店、石原、長野、上田、森、浅川、坂本、天羽、岩崎、庄野、滝本、繁崎、松永、富永、佐伯、坂東、笠井、中條、西木、真鍋、井内、小倉、広野、アツミ、松岡、富島、宮越、酒井、森田、内田、新井、真鍋、田村、近藤、林、森、田中、藤沢、大槇内科、かさい、しが、幸田、立川、いせ、増田、斎藤、大木、佐川、内田、佐野、呉羽、竹

村、板東、多田、榎本、森永、鎌田、寺岡、太田、北室、佐藤、香川、池田、生田、松田、内田、西谷、前田、藤高、岡田、中安、石山、福井、小川、浦上、松屋、武田、真鍋、宇治製菓、四宮、岩橋、新田、(株)中山コーティング、井内 城西土地、濱口、長野、山花、川上、宮越、天野、藤浦、宗田、貝出、宮本、井口、栗飯原、つちい、竹内、岸路、田村、和泉、伊勢、川城、上浦、藤本、西森、板東、樫原、岡島、福永、恰、橋本、酒井、米沢、西林、長町、増田、カワサキ、なのはな徳島、吉田、竹中、向、竹田、大坪、川端、前田、斎藤、荒井○板野町○岩田、アイダック、三木○石井町○吉田、坂東、岸田、田村、今出、田中、北野、岡田、清重、阿部○鳴門市○大和、西條、井戸、高井、松岡、川上、長谷川、八木、久龍、村、長尾○小松島市○マキモト、井上、矢部、吉野、篠田、富永、小川、久龍、木下歯科医院、山下○吉野川市○立川、松山、キノキリ、中島、松山、前田、古谷○松茂町○吉倉、神月○北島町○竹内、横山、岡田、篠原、三木○藍住町○植田、林、正木、花木、阿部、湯浅、上田、楠木、岡本、奥村、井上、上野、阿部、谷脇、井上、岡○板野町○高橋、稲井、エコリース、佐藤、吉川

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられ、実際は上記の3倍以上の皆様からご協力を頂いております。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。



奥の倉庫左(冷蔵庫・洗濯機、家具、おもちゃ、楽器など)
それぞれのメンバーができる作業に取り組んでいます

編集後記～世間の風

電話のコール音が食堂に響く。

メンバーのAさんが出る。

「はい、太陽と緑の会リサイクル作業所メンバーのAです」

ご家庭で不用となったお品物の引取（回収）のご依頼、リユース品の在庫の問い合わせ、など、様々なお電話を、毎日100件近く頂きます。

太陽と緑の会リサイクル作業所では、その最初の窓口を、様々なハンディを持ったメンバーたちが引き受けています。

「今日活動していますか」といった即答できるお問い合わせは別として、具体的な内容のお返事はこちらから折り返しのお電話で対応させて頂いております。

「はい、それではお名前とお電話番号をお願いします」

メンバーのAさんは何回かその言葉を繰り返した後、困った顔でスタッフのBさんの所まで来て「ちょっと代わって」と受話器を渡しました。

「申し訳ございません。ただいま回収担当スタッフはトラックで外に出ていますので、夕方お電話をさせて頂き、お品物やお伺いする日時等のご相談をさせて頂く形になります」とBさんの説明に、最後は何とか納得して頂けたようでした。

Aさんには言語障害があります。20年間、リサイクル作業所でいろいろな種類の作業に取り組んできましたが、なかなかAさんを活かすことにつながるものがなく、最終的に電話の作業が残りました。

受話器越しに聞くAさんの言葉は聞き取りづらいと感じる方も多いと思います。

「お前ではあかん。話の分かる奴を出せ」

「ちゃんとした人間はおらのんか」

「まともに話せる人に変わってくれ」

お客様の言葉のひとつひとつがAさんに突き刺さります。

言われたら辛い。しかしある意味、これも世間の現実です。身近にハンディを持つ人がいない（いたとしても気付きにくい）社会の中で、ハンディを持つ人と接するのは初めて、言語障害の人と話なんてしたことがない、という方も多く、戸惑いや違和感、時には不快感や怒りを覚えることもあるのが当たり前です。

塀（へい）で囲って世間の風から守れば、辛い思いをしないで済みます。世の中の現実にはさらされることなく心穏やかに（場合によっては、眠るように）生きていく。それもひとつの生き方です。

その代わり、一生塀の外では生きていけないでしょう。世間に適応できない人は塀の中で暮らすべきだ、という声も世間にはある。塀の外にコートピアはなく、世間の風から逃れることはできない。

世間で生きていく力は、世間の風に当たるという実践で養われるものであり、トレーニングや訓練だけでは歯が立ちません。

もちろんハンディゆえに、100%の世間の風は強すぎて耐えられないかもしれない。半分くらい困りが必要になるときがあるのも確かです。そのために作業所があり、スタッフがいます。

「世間が変わる必要がある」という正論も一理ありますが、世間と言っても突き詰めれば、私たち一人一人の価値観や行動であり、短期間で変わることはありません。

新型コロナウイルスの流行で会社が倒産したり、仕事を失ったり、給料が減ったり、学校が休校になって仕事を休まざるを得なくなったり、病気、子育て、介護など、それぞれの生活があります。

「うちらも生きていくんに必死やわ」

「大変なんは障がい者だけちゃうわ」

日々日常から余裕が失われ、正論が共感を得にくい(反発を招くこともある)中で、小さな実践の継続的な積み重ねの意味を改めて思います。

営利目的の商売としてリサイクルビジネスを行うのであれば、様々なハンディを持ったメンバーは切り捨てる、あるいは公的資金がもらえる期間だけ受け入れて邪魔にならない程度の雑用に従事させる、という方がはるかに合理的です。

山ほどの労力・精神力を費やし、身を削りながらミスやトラブルの後始末を引き受け、10年20年という長いスパンでメン

バーを活かし育てることを考える、という営みは、損得勘定で見ればとても割に合うものではありません。

「(もう一人の電話担当)メンバーのCさんはスラスラと話せるから、電話で話しているお客さんもCさんにハンディがあるとは思わない。だからこの人に聞いたら何でも分かると思っていろいろ聞いてくる。Cさんも、障がい者だからってバカにされたくない、って気持ち強いから、分からないことでも『私では分かりません』と言えずに一生懸命答えようとする。しまいには『たぶん〇〇だと思います』と見当違いのことを言ったり、できもしないことを安請け合いして、後でお客様を怒らせてしまうこともある。そんなCさんも、30数年前、電話の担当を始めた頃は吃音が激しくて、受話器を取ってから2分くらい言葉に詰まって何も言えず、お客さんからよく怒られた…」

スタッフDのそんな話を聞きながら、電話のコール音が鳴ると、いつものように受話器をとるメンバーのAさんがいました。(文責・小山)

(当会の日々日常をつなぎ合わせたイメージです)

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

ゆうメール押印・宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住

年会費：正会員1万円(総会議決権)

準会員1,000円(機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会